

## 令和5年度第3回滋賀県職業能力開発審議会 概要

### 1 日時

令和5年9月19日（火）14時から16時まで

### 2 場所

滋賀県庁 本館2階 第三委員会室

### 3 出席委員

佐藤、田邊、山本、和田孝、和田光平、池内、齋藤、菱田、西林、沼井の各委員（敬称略、出席10名）

### 4 事務局

労働雇用政策課長 他3名

### 5 オブザーバー

県立高等技術専門校校長

（独）高齢・障害・求職者雇用支援機構滋賀支部

滋賀職業能力開発促進センター所長

### 6 議事概要

高等技術専門校のあり方検討答申案について

しが職業能力開発推進プランの実施状況の報告について

資料1～3および参考資料1～9により説明

## 【主な意見等】

### 議題1 高等技術専門校のあり方検討答申案

#### 委員

10 ページの「滋賀らしい訓練の充実」の若者という表現は若年者に変更した方が良い。また、「セーフティーネット」だけだとわかりにくいので、「求職者のセーフティーネット」と表現を改めた方が良い。

#### 委員

4 ページで応募者 345 人と記載されているが、入校者は 231 人となっている。この人数の差は何か。

#### 事務局

応募はしたが、入校するまでの間に就職している方が多くいる。

#### 委員

高専等との連携強化はどこまで考えているのか。講師や設備等の相互乗り入れできるような形になれば良い。また、滋賀らしいという文言を盛り込むと、どうしても琵琶湖関連の内容になってしまう。他に記載できることがないか、例えばものづくりの記載等深く考えていかないといけない。

#### 事務局

高等学校の生徒達に対する技能検定の受検対策や施設貸出等で引き続き連携をしていきたい。高専との連携についてはこれから協議を進めていきたい。また、滋賀らしさの部分でものづくり分野は非常に大切だと考えている。

#### 委員

訓練の中で外国人労働者向けの枠はないのか。

#### 事務局

委託訓練の中で定住外国人向けのコースを実施している。

#### 委員

言葉の壁があるのでフォローをお願いしたい。

#### 委員

専門校に入校する要件はどうなっているのか。

## 事務局

求職者の場合には、職業安定所の方から受講指示や受講推薦が出されるため、在留資格のある定住外国人でないといけない。

## 事務局

在職者訓練なら受講可能である。言語習得や日本の企業文化の理解等難しい部分もあり、外国人の雇用に関して課題があることは認識している。訓練の中ですぐに対応することは、難しいと考えており、言語的なサポートに関しては市町が行っているところもある。また、外国人技能実習制度の変更にも注視する必要がある。

## 委員

過去に定住外国人を施設内訓練で受け入れたことはあるのか。

## 事務局

過去に受け入れた事例もあるが、ものづくり関係の職種については危険な作業もあるため、一定の日本語能力は必要となってくる。

## 委員

外国人も丁寧に受け入れているというのも滋賀らしさになるのではないかと。

## 事務局

すぐにお応えするのは難しい部分もある。

## 委員

滋賀らしさの部分で、企業から講師を招いて授業ができないか。

## 事務局

民間企業を退職された方で専門校の在職者訓練等の講師をしてもらっている方もいる。

## 委員

表現として見えてこないなので、県内企業とタッグを組んでやっていくことを表に出していきべきだと考える。

## 委員

高専の方でも審議会は実施されているのか。

## 事務局

高専準備室の方で、場所やどういった学科を作っていくのか等を ver1.0 として示されているとこ

ろ。経済団体との共創宣言の中でプラットフォームを作っていくこととされており、これから動き始める。

### 委員

建築分野の記載で2級建築士の受験資格がとれるのは非常に大きな目玉になると考える。授業料や訓練期間、受験資格の詳細をお聞きしたい。

### 事務局

訓練は無料で訓練期間は1年である。木造建築科を修了し、かつ高等学校を卒業していれば2級建築士の受験資格が得られる。

### 委員

高齢者が長生きできることも魅力の一つだと考えている。高齢者に対する再就職へのアピールも重要だと考える。

### 委員

定年退職した人の中でも技術顧問をしてもらっている人もいるが、65歳以上の人はよほどの経験を積んでいないと中々難しい。高度か簡易作業かの二極化になってしまうことが多い。力のある人は個人として契約している。

### 委員

パートの方だと継続して働いてもらうのが中々難しいこともある。

### 委員

高齢者が異業種へ就職しようと思うと意志と能力が必要であり、かなりパワーが必要だと思うので支援は重要だと思う。

### 事務局

就職してもらうのが専門校としての役割であり、求職者の意欲は非常に重要である。

### 委員

生産年齢人口が減少していく中で高齢者の就業も非常に重要である。

### 委員

人材不足の状況であるのならば、就職率80%で満足してはいけないと考える。徹底的な就職支援も滋賀らしさの一つとしてはどうか。また、中小企業に対して優秀な人材を送り込むため、他府県では色々な取組をされており、岐阜県では次世代リーダー協働育成プロジェクトという取組を実施している。京都府や岐阜県等の近隣府県の出口戦略の取組も参考にされてはどうか。

## 事務局

就職率をより高められるように訓練内容についても、企業の求めているものを組み入れていく。

## 委員

就職が中々難しい人にはプラスアルファの支援の仕組みが必要である。

## 委員

資格をとってもその業種に就職しない方もいるため、就職への意識が非常に重要になってくる。

## 委員

継続力が非常に重要である。

## 事務局

修了までいかれる方は意欲のある方だと考えているが様々な考え方がおられるので、就職率が上昇してこないこともある。

## 委員

セーフティーネットと記載するとメンタルの部分のケアも今後必要になってくるのではないか。

## 事務局

専門学校としては求職者支援のセーフティーネットを担い、全体的な支援は全庁で考えるべきものである。

## 委員

滋賀県はものづくり企業の支援はかなり丁寧な印象がある。以前に行っていた事例も参考に見てはどうか。

## 事務局

雇用状況が厳しかった時期の施策もある。しがジョブパーク等を通じて就職支援を実施している。

## 委員

溶接分野に関しては一校舎に集約となっているが、縮減してしまうということなのか。

## 事務局

ポリテクセンターで溶接施工科を実施されており、米原校舎と草津校舎で溶接分野の訓練を実施しているが、役割分担を行い、米原校舎に資源を充実させていきたい。

## 事務局

全体としては大きく人員や予算が減らないように今後検討していきたい。

## 委員

専門学校ではリモート授業は行っているのか。

## 事務局

コロナ禍で行っていたことはあるが、直接授業を受けたいというニーズが多いため、現在はリモート授業を実施していない。

## 委員

若年者については、特に YouTube 等の動画で情報を収集されていることが多い。DXの観点からもリモート訓練を取り入れた方が受講しやすいのではないかと思う。

## 事務局

職業訓練では、学科においても国の規定により Zoom 等でほぼ対面のような形でないと難しい。

## 委員

Zoom での実施だけでも受けやすさにつながると思う。また、指導員はどのように評価しているのか。指導員に関しても県の垣根を越えるような取組も実施してみてもどうか。滋賀らしさに関しては、例えば水にこだわるなど、とんがった部分があっても良いのではないか。

## 事務局

Zoom 等の手法も活用していきたい。指導員の評価については、受講生に3ヶ月に1回の頻度でアンケート調査を実施している。

## 委員

職業訓練においては実技的な要素も大きいため、リモートが難しい部分もある。

## 委員

本日の議論を踏まえ、答申案を修正し、10月の下旬を目途に県に答申をしたいと考えておりますが、今後の対応については、会長一任という形で事務局と対応してよろしいでしょうか。

## 委員一同

異議なし

## 議題2 しが職業能力開発推進プランの実施状況の報告について

### 委員

昨年度の実績を踏まえて、今年度の実施計画を作成するにあたり、昨年度の反省点にあたる記載がないのではないか。

### 委員

視覚的にわかりやすいようにしていただきたい。

### 事務局

○や△等で評価をつけることや記載内容等を検討していく。

以上